

序 文

我が国は、1992年にODA大綱において「環境の保全」を援助の基本理念の一つに掲げ、全人類が共通の課題として取り組まねばならない課題としています。また、1997年6月環境開発支援構想（ISD）により自然環境保全での国際貢献を世界に発表し、さらに1999年8月政府開発援助に関する中期政策では、地球規模問題への対応の一つとして環境保全の取り組みを重点課題と定めています。このような動きを受け、国際協力事業団では自然環境分野における協力を強化するために、森林・自然環境協力部を設置し、メキシコ、コスタリカ、マレーシア、アフリカ（南アフリカ、ジンバブエ）を対象に自然環境分野の基礎調査を実施し、優良案件の発掘と協力のアプローチを開発しています。

本基礎調査団は、インド全般の自然環境保全体制調査を行うとともに、ケララシ州およびオリッサ州（チリカ湖）において、自然環境保全に係る情報を収集し、技術協力の可能性と方向性を検討することを目的として、平成13年10月28日から11月17日まで当部計画課吉浦伸二課長代理を団長とし派遣されました。本報告書は本基礎調査の結果をまとめたものであり、今後の協力を携わる関係者の方の参考になれば幸いです。

最後に、本調査にご尽力頂いたインド 国政府関係者、現地大使館、国内関係機関の各位に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2001年12月

国際協力事業団
森林・自然環境協力部
部長 宮川 秀樹